

2020・令和2年センター漢文解説(本試験) 準拠『早覚え速答法』

※m4は『早覚え』マニュアルの4ページ、176は『早覚え』の176ページ、36.1は問題文36ページ1行目を示す。

【出典】

『文選(もんぜん)』卷三十「田南樹園激流植援」。作者の謝靈運(しゃれい うん)は、東晋から南朝宋にかけての政治家・詩人。政権内での栄達と失脚を繰り返しつつ詩を作り、最後は南端の流刑地で処刑された。(433年没)

【書き下し文】※音読のためルビと送りがなの歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更。

※訳注者によって読み方と訳が異なるので、次の文献を参照して書き下しと訳を決定した。

- ①『文選 詩篇(六)』、川合康三「ほか」訳注、岩波書店、2018年(以下「岩」と略す)
- ②『文選(詩騷編)四』、小尾郊一・花房英樹 訳注、集英社『全釈漢文大系』第29巻、1974年(以下「集」)
- ③『文選(詩篇 下)』、内田泉之助・網祐次 訳注、明治書院『新釈漢文大系』第15巻、1964年(以下「明」)

したがって、問題文と読み方が異なる所がある。その理由は注記した。

※原文「園中氛雑」について「明」は「中園氛雑」とするが、問題文に従う。

※本文と翻訳に異同はあるが、解答には一切関係がない。

樵(しょう)隠(いん)俱(とも)に山に在るも、由来事(こと)同じからず。

同じからざるは一事(いちじ)に非ず。痾(やまい)を養うも亦(ま)た園中。

園中氛雑(ふんざつ)を屏(しりぞ)け、清曠(せいこう)遠風(えんふう)を招く。

室を卜(ぼく)して北の阜(おか)に倚(より)、扉を啓(ひら)きて南の江(かわ)に面す。

澗(たにがわ)を激(せきと)めて 井を汲(く)むに代(か)え、槿(むくげ)を挿(う)えて列墻(れつよう)に当(あ)つ。

群木既(すで)に戸に羅(つらなり)、衆山亦(ま)た窓に対す。

靡迤(びい)として下田(かでん)に趨(おもむ)き、迢遞(ちようてい)として高峰を瞰(み)る。

欲を寡(すくな)くして労を期せず、事に即して人功(じんこう)罕(まれ)なり。

唯(た)だ蔣生(しょうせい)の径(みち)を開き、永(なが)く求羊(きゆうよう)の蹤(あと)を懐(おも)う。

賞心 忘(わす)るべからず、妙善 冀(こいねが)わくは能(よく)同(とも)にせん。

【現代語訳】( )内は訳者の補訳。

木こりと(私のような)隠者が山にいる。もともと(山で行う)事は(木こりと隠者では)異なる。

異なる(のだが、私が山にいるのは)一つの事情(から)ではない。療養するのも(この山の)庭園の中(にいる事情の一つ)。

俗世のわずらわしさは庭園になく、清く広い空間は遠くの風を呼び寄せる。住居の場所は占いで決めた。

北は丘に接し、南は川に面して門を開け、谷川をせき止めて井戸に代え、槿(むくげ)を植えて高い壁のつもり。

木々はすでに戸に接し、山々も窓の前。右へ左へ足取り軽くふもとの田畑に向かい、はるかに遠く高い峰を下に見る。

欲を出さず努力もせず、何事にも手はかけないが、漢の蔣詡(しょうく)にならって自宅の庭に友人を招く小道だけは作り、かつて求仲と羊仲という蔣詡の親友が歩いた足跡を思う。

美しい風景を愛する心。これを忘れてはならない。  
この上ない幸福。これは友人と一緒に味わいたい。

### ※訳注

由来―①もことから、元来。「集」「明」 ②理由。「岩」

訳では①を採用した。①②での訳を比べると、次のように②では「事」が訳せない。

①もことから事は同じではない。

②理由 事は同じではない。

列壙―高い壁。「列壙」と訓読するのは「岩」「集」「明」同じ。

靡迤(びい)―曲がりくねって行くようす。

趨(はし)る―早く歩く。疾走(しつそう)ではない。

迢遞(ちようてい)―はるかに遠いようす。

瞰(み)る―下に見る。

寡欲―『老子』「少私寡欲」による表現。

勞・功―「功勞」という熟語を二つに分けて使っている。努力と功績。

即事―作業する

罕(まれ)なり―「罕」を動詞と考えれば、「くをすくなくす」「集」、あるいは「くをまれとす」と読めるが、「岩」「明」と同じく、意識として「まれなり」と読んでおく。

同(とも)にせん―文法に配慮した読み方は、「妙善を同(とも)にせんことを冀(こいねが)う」。「妙善」は「同(とも)にす」の目的語だが前置されている。

「妙善を同(とも)にせんこと」が「冀(こいねが)う」の目的語。

「冀(こいねが)わくは願(ねが)はくは」と読む場合、次の二つがある

① ねがはくはくことを。

② ねがはくはく(せん)せよ。

ここでは「岩」集と同じく、試験頻出の次の歌の読みに従う。

「ねがはくは花のしたにて 春死なん そのきさらぎの望月のころ」西行『山家集』

願いがかなうなら 桜花の下で春に死のう その二月の満月のころ

## 【解説】

### 筆者の主張をつかむ<sup>37.4</sup>

#### ステップ1——最初の2行を読む

説明・注で正解つかめ！<sup>176</sup>

により、注を使い、最初の2行を読むと次のとおり。なお、読めない部分は「—」とした。

木こりと隠者(注1)——山に在(あ)るも 理由(注2)——36.1

都の生活で疲れた心身を癒す(注3) 亦(ま)た庭園のある住居(注4)36.2

#### ステップ2——最後の3行を読む

—労を期せず 事に即して人の手をかけ過ぎない(注10)36.8

唯(た)だ 自宅の庭に小道を作って友人たちを招いた漢の蔣詡(しようく)(注11)の径(みち)を開き37.1

永(なが)く親友(注12)の蹤(あと)を懐(おも)う37.1

美しい風景をめぐる心(注13) 忘(わす)るべからず37.2

この上ない幸福(注14) 冀(こいねが)わくは能(よく)同(とも)にせんことを37.2

ステップ3——最後の問7の選択肢を見る

三つのステップで共通する言葉を探すと、次のように「内が

同じだ。

ステップ2

「美しい風景を めでる心(注13)」<sup>37.2</sup>

ステップ3

④「美しい風景は ながめて その楽しさが味わえる」

⑤「美しい風景は ながめないと 称賛されない」

正解候補は④⑤であり、筆者の主張の一部は、「都の生活で疲れた心身を癒す…庭園のある住居」<sup>38.2</sup>だろう。これで十分。これが大事。ここで

退却ルール<sup>38</sup> 三分以内に主張をつかむ作業をやめて最初にもどる

を実行し、あとは、「都の生活で疲れた心身を癒す…庭園のある住居」を念頭において読んでいく。

問1(ア)(注)

説明・注で正解つかめ！<sup>176</sup>

により、注には「正解がほめかされている」。

注1を使うと波線部「俱」について

木こりと隠者 俱 山に在(ある)

という語順なので、「俱」の読みは、

木こりと隠者(が)「ともに」山に在(ある)

の⑤が正解。

## 問2〔漢〕

傍線部Aの「非」は重要漢字ではない。

対義語「是」は重要漢字⑤であり、その例文の中で「非とす」という読みを紹介しているが、「非とす」が正解の決め手に使われることはない。

したがって、「非」は通常の「く」に非(あら)ず」なので、下から読むためのレ点や一二点がある。そのため、正解候補は①②③。

おなじように傍線部Aの「同」も重要漢字ではない。

「不同」の読みは「事不同」においてすべて「同じからず」。「同」は重要漢字ではないので、「非不同」においても、「不同」を①③「同じうせず」と読む必然性はない。したがって「同じから(ぎる)」と読む②が正解。

## 問3〔注〕

### 説明・注で正解つかめ！176

により、注には「正解がほのめかされている」ので、注7から読むと次のように選択肢が絞られる。

住居を建てる場所を決める〔注7〕

北の阜(おか)に倚(より) 扉を開きて南の江(かわ)に面す 36.4

←  
②  
③

澗(たにがわ)を激(せきと)めて 井を汲(く)むに代(か)え

←  
②  
④

槿(むくげ)を挿(う)えて 塘(かき)に列(つらなる)に当(あ)つ 36.5

←  
①  
②

したがってすべてを満たす②が正解。

問4〔3〕〔対比〕

1 「押韻」で解く…母音が同じ

**偶数句末の母音をそろえろ！**<sup>132</sup>

により、偶数句末の母音を見ると次のとおり。

同 dou 中 chuu 風 fuu 江 kou 塘<sup>？</sup> 峰 hou 功 kou 蹤<sup>？</sup> 同 dou

すべてにあてはまる句末の母音は、u。選択肢で、uがあるのは、次の三つ。

①窓 sou ②空 kuu ③虹 kou

2 「対比」で解く…○対□

**対比に注意！**<sup>112</sup>すると、空欄を含む句は

山…□に対す<sup>36.6</sup>

となっているので

山 vs □

という対比だ。選択肢をあてはめると次のとおり。

山 vs 窓① 大きな自然物 vs 小さな人工物

山 vs 空② 地の自然物 vs 天の自然物

山 vs 虹③ 消えない自然物 vs 消える自然物

決め手を欠くので、前の句を見ると空欄□を含む句と次のような対比になっている。

X群木 vs 戸

Y衆山 vs □

3 「熟語」で解く…上下同じ意味





最初の作業でつかんだ正解候補は④⑤。

⑤「称賛される」の「くれる」は受身<sup>レ</sup>だが、受身に相当する原文がないので、これがキズ。このヒツカケ選択肢は次のようにして作られたのだろう。

賞心 37.2

←「賞」を上下同じ意味の二字熟語にする

賞賛

←「賞賛」を同じ意味の熟語に代える

称賛する

←「する」を原文にない受身「される」に代える

称讚される

④にキズはなくこれが正解。

以上